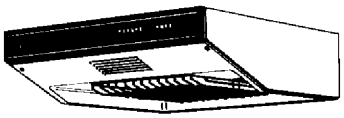
MITSUBISHI

三菱レンジフードファン

V-317H2

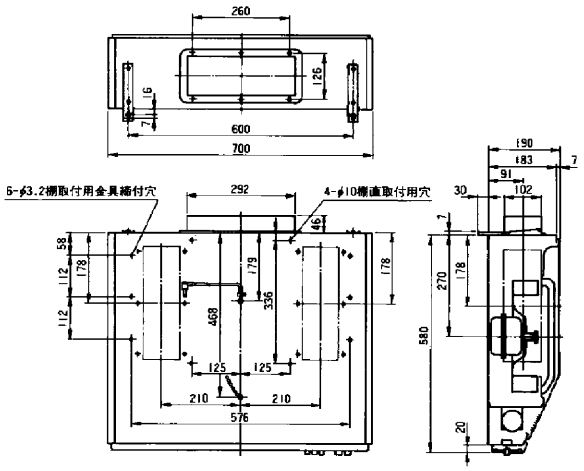
取扱説明書



ご使用の前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

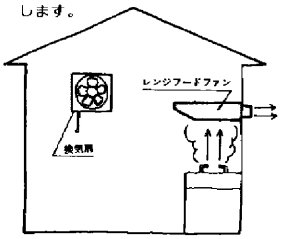
ご使用の電気品の説明書は保存しておいてください。
万一　ご使用中にわからないことや不都合が生じたとき　きっとお役にたちます。

■外形寸法図



■ご注意

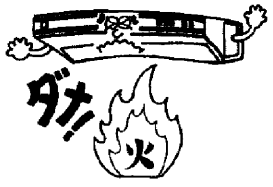
1．レンジフードファンは局所換気方式ですから台所の全体換気をするには適していません。
全体換気の必要なところは、他の換気扇と併用することをおすすめいたします。



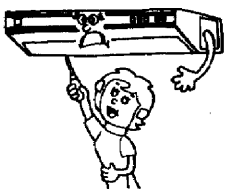
2．配線工事は、専門の電気工事店へご依頼ください。

3．周囲温度が40℃を越える雰囲気の中で長時間使用しますとモーター・コンデンサーなどの電気部品の絶縁物が劣化して漏電の原因及び軸受部品の給油が不完全になり軸と軸受けの焼付きの原因となります。

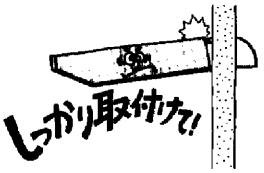
4．レンジフードファンはプラスチック部品を使用していますので、炎が当たりますとプラスチック部が変形したり溶けたりすることがあります。



5．ご自分での修理改造は行なわないでください。



6．取付けが不充分ですと騒音を発生したり共鳴することがありますのでしっかりと取付けてください。

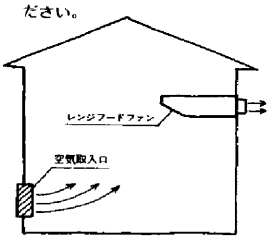


7．取付け場所が製品重量(13.5kg)に充分耐えるように補強工事を行なってください。

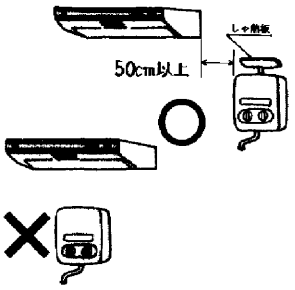
8．ガス湯沸器を使用する場合排ガスが多く出ますので必ずレンジフードファンを運転してください。

9．排気ダクト先端には、雨水の浸入を防ぐためウェザーカバー(別売部品)などを取付ける事をおすすめします。

10．密閉された建物では、汚れた空気を排出するとき、新鮮な空気の入るところが必要です。レンジフードファンの反対側に空気取入口を設けてください。



11．ガス湯沸器は、種類によって排気温度が100℃を越える場合がありますので真上での取付けはさけてください。やむおえず取付ける場合は、湯沸器の上部にしゃ熱板など設けて、レンジフードファンの吸込温度が40℃以下になるようにしてください。



■ご使用方法

●このレンジフードファンには、調理中手元が暗く作業しにくい事を防ぐ為に60W以下の白熱電球が取付けられるようにソケットを内蔵していますのでお買上げになり取付けてください。(図1)
(油受けを取外せば取付けできます。)

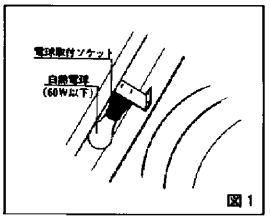


図1

●ファンスイッチには「強」と「弱」があります。煙が多く出るものを調理するときは「強」少ない場合や調理後の脱臭には「弱」のスイッチボタンを押してください。(図2)

●調理中手元が暗い場合はランプ「入」を押してください。ランプが点灯します。

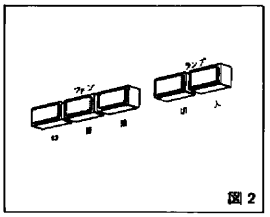


図2

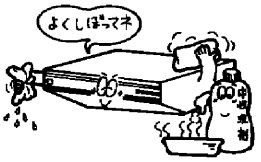
ご注意

●レンジの空炊きの状態では絶対にレンジフードファンを使用しないでください。

●レンジフードファンは風の影響を受けやすいためレンジフードを使用する場合は、付近の窓はなるべく閉めて使用してください。

■お手入れのしかた

お手入れのときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
お手入れのときは、必ずゴム手袋を着用し、板金部品の切り口やお湯に充分注意してください。
レンジフードファンが汚れてきましたら、下記の方法でお手入れしてください。



●外装・内装の清掃は、中性洗剤を溶したぬるま湯に浸した布で汚れをとり、きれいな水に浸した布をよくしぼってふいてください。

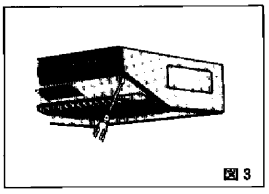


図3

●油受けを止めている止めネジ（2本）をドライバーで外せば、油受けは、後部の丁番を軸に扇状に開きます。この状態で油受けを手前に引けば油受けは本体より外れます。
（図3・図4）

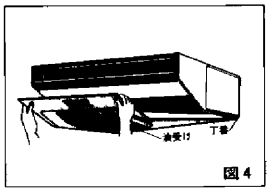


図4

●羽根を外すときは、羽根を押えて、セットツマミを「ユルム」の方へ回してください。セットツマミが外れますと羽根も外れます。
（図5）

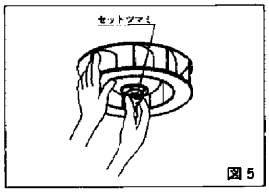


図5

●取外した部品は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に浸して汚れを落とし、きれいな水ですすぎ洗いをしてから、乾いた布で充分湿気を取ってください。

ご注意

●モーターなどの電気部品は、水に浸さないでください。
（絶縁不良になります）

●プラスチック部分や塗装面の掃除には次の薬品などは使用しないでください。
揮発性の溶剤（ガソリン・シンナー・アルコール・ベンジン・灯油など）スプレー、みがき粉、金属タワシ、アルカリ性の石けん水などは絶対に使用しないでください。
●化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと、変質したり、塗装がはげたりすることがありますのでご注意ください。
●市販のアルカリ洗剤などは、塗装をはがすものもありますので使用しないでください。
（洗剤をご使用になる前には、必ず洗剤の注意書をよくお確めください。）
●お手入れのときは、羽根が変形しないようにていねいに取扱ってください。変形しますと騒音や振動の原因となります。

■アフターサービス

三菱レンジフードファンのアフターサービスは、お買求めの販売店へお申付けください。
なお、ご不審のときは当社のご相談窓口（取扱説明書同封一覧表の最寄りの三菱電機お客さま相談センター）にお問合わせください。

■部品保有期間

換気扇の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後6年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。
性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

■仕様

形　名	周波数(Hz)	ノッチ	消費電力(W)	風量(㎥/時)	騒音(ホン)	重量(kg)
V-317H2	50	強	62	744	50	13.5
		弱	46	498	40	
	60	強	78	738	50	
		弱	48	456	39	

■換気扇の診断のお願い

●長い間お使いの換気扇は、使用上支障がなくても安全のための診断をお願いします。
●次のような症状がある場合は、事故防止のためすぐに電源プラグを抜いて必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご依頼ください。（有償）
★ご自分での修理は、危険ですから絶対にしないでください。

- スイッチを入れてもときどき羽根が回転しないことがある。
- 回転が遅い。または回転が不規則である。（排気または吸気が弱い）
- 運転中に異常な音や振動がする。
- こげ臭い“におい”がする。

三菱電機株式会社
〒100 東京都千代田区丸の内2-2-3(三菱電機ビル)

8706B㊥R
588H51838

安全のために必ずお守りください

●ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。
●お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に保管してください。
●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を⚠警告・⚠注意の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの	⚠注意	誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

●図記号の意味は、次のとおりになっています。

	禁　止		分解禁止		水場での使用禁止		接触禁止
	指示に従い必ず行う		電源プラグを抜く		アース線接続		

⚠警告

●交流100V以外では使用しないでください。
（火災や感電の恐れがあります）
●浴室換気扇でも内釜式風呂を据付けた浴室では使用しないでください。
（排気ガスが浴室内に逆流し、一酸化炭素中毒をおこすことがあります）
●製品を水につけたり、水をかけたりしないでください。
（ショートや感電の恐れがあります）
●ガス漏れに気付いたときは、換気扇のスイッチの入・切や電源プラグの抜き差しはしないでください。
（爆発や引火の恐れがあります）

●どんな場合でも改造はしないでください。分解・修理は修理技術者以外の人は行わないでください。
（火災・感電・けがの原因となります）
修理はお買上げの販売店または当社のお客さま相談窓口にご相談ください。

●電源プラグの刃および刃の取付け面にほこりが付着している場合は、よく拭いてください。
（火災の原因になります）
●電球を交換するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜くか分電盤のブレーカーを切ってから行ってください。
（感電することがあります）

●お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜くか分電盤のブレーカーを切ってください。またぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
（感電やけがをすることがあります）

●湿気の多い場所で使用する場合は、アースが確実に取付けられているか確認してください。
（故障や漏電のときに感電することがあります）
アースの取付けは販売店、電気工事店にご相談ください。

※上記は換気扇全般を示しています。該当する事項を確認して必ず守ってください。

換気扇：お客さま用

裏面にも注意事項がありますので必ずお読みください。

9608R588HJ5003

安全のために必ずお守りください

⚠注意

●本体に異常な振動が発生した場合使用しないでください。
（本体・部品の落下によりけがをすることがあります）
●直接炎のあたる恐れのある場所や有機溶剤のある場所では使用しないでください。
（火災や故障の原因になります）
●指定以外の電球を使用しないでください。
（ランプ部分が高温となり、やけどをする恐れがあります）

●浴室換気扇以外は、浴室など湿気の多い場所では使用しないでください。
（感電および故障の原因となります）

●運転中は危険ですから、羽根の中に指や物を入れないでください。
（ショートや感電の恐れがあります）

●電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。
（感電の恐れがあります）
●お手入れ後の部品の取付けは確実に行ってください。
（落下によりけがをすることがあります）
●お手入れの際は手袋を着用してください。
（けがをすることがあります）

●長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜くか分電盤のブレーカーを切ってください。
（感電やけがをすることがあります）
●電源プラグをコンセントから抜くときには、電源コードを持たずに先端の電源プラグを持って引き抜いてください。
（感電やショートして発火することがあります）

※上記は換気扇全般を示しています。該当する事項を確認して必ず守ってください。